

# わたしの好きな よりの

No.153

寄居町は、豊かな自然から、そこかしこで四季の美しさを感じることができ、その趣には目を見張るものがあります。役場庁舎の周辺も、旧寄居中学校から続くサクラやケヤキ、その他にも植えられたさまざまな木々や花々などから、折々に四季の移り変わりを感じることができます。また、少し離れた場所から庁舎を眺めてみると、その時期の空気と周辺の様子から、季節によって異なった装いを感じることができます。

巡りゆく季節の中で、日々風姿を変える庁舎周辺を、時にはのんびりと散策されるのはいかがでしょうか。

本年も、さまざまな寄居町を紹介するこのコーナーを、よろしくお願ひします。



春



夏



冬



秋

## <春夏秋冬>

- 春：庁舎の周りで楽しめる、数種類のサクラ
- 夏：目立たないところにも吹き込む、夏の風
- 秋：それぞれが競うように色を変える、木々の彩り
- 冬：空気が澄んで鮮やかに映る、冬の朝日

## わが町の 達人 茶道の達人

No.22



落合玲子さん（菅原）

茶道に学んで五十年が過ぎました。茶道は、とすれば日常生活とか離れたものと思われがちですが、これほど生活に密着しているものは少ないのではないのでしょうか。狭い場所を広く便利に使う水屋の働き、物事を順序良くできるような道具の置き方、合理的な懐石料理等、例をあげればきりが無いほど、日常生活

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

のほとんどの部分に活かされており、茶道と日常生活とは表裏一体の関係にあると言えます。茶道を知ることによって日常生活を向上させ、豊かに合理的にすることも可能なのです。

世の中がますます複雑になってくるにつれて、私たちは心も体も共にストレスがたまる毎日ですが、静かに一わんのお茶を服し、ホッとすることときを持てれば疲れを癒し、新しい活力を生み出す原動力にもなるのではないのでしょうか。

また、茶道に限らず礼儀を重んじることは当然のことですが、近ごろはこれがなかなか守られなくなってきたことはとても残念です。社会の規律は乱れ、秩序が破壊されて、安心して生活できないような状況も時々起こります。礼儀があってこそ初めてお互いを愛し、敬い、そして親しみ、和しあうことができるのだと思います。茶道はそれを簡単、めいじょう明瞭に順序正しく修得するよう教えています。

自己を修練し、お互いに尊重し合うこと、この精神こそ茶道の教えです。“茶道は遊芸に非ず”と先人は言われました。私は茶道に多くのことを学び教えられました。とても達人などと言われる域に達することはできませんが、今振り返って思うことは、お茶を通して多くの人達に出会い、その人たちから限りない教えを受けたこと、また、たくさんのことを見聞きし、楽しめたことなど精神的にとっても豊かな人生を生きてこられたことが何よりの喜びです。これからも多くの人たちとの交わりを持ちながら、自然の恵みに感謝し、季節の移ろいに心を寄せ、茶を楽しんでいきたいと念じています。

